



## 今月のトピック

温度が下がって  
換気量が減ってきたら  
高湿度に注意



今年はいつまでも昼間の温度が夏のように高く、ハウス内が30℃を超えるような日が続いていましたが、11月に入ると一気に温度が下がり冬の気配が……。換気量が少なくなってハウス内は湿気がこもりやすくなっています。今月はハウス内の除湿についてご紹介します。

## 換気量が減り保温が始まる時期の高湿度に注意！

### ● 温度と湿度の関係

**温度が下がると相対湿度が上がります**（※換気による水蒸気の移動がないとき）。これは、温度が下がると空気が保持できる水蒸気量が減るため、空気中の水蒸気の割合（持てる水蒸気量に対する実際に含まれる水蒸気量の割合）が増えるためです。目安として、**温度が1℃低下すると相対湿度は約5%上昇する**と覚えておくと良いでしょう。

夕方にハウスを閉め切った後にハウス内の温度が下がり、相対湿度が高まると病気が発生しやすくなります。**換気は温度が最低気温付近まで下がってから閉みましょう。（例えば換気を閉めたときの温度が16℃、明朝の温度が12℃なら湿度は約20%上昇！）**

### ● 暖房機が動かず換気が閉め切られているときは特に注意！

外気の温度が夜間の管理目標温度に近い日は、窓が閉め切られている状態でハウス内温度が暖房設定温度を上回ることがあり、換気されず暖房機も動かない時間帯が増えます。そのため、換気や加温による除湿ができず、空気も動かず、病気発生リスクが最も高まります。こんなときは、**暖房機の稼働で1℃でも温度を上げられると病気が出やすい湿度から脱することができます。温度が目標とする温度を満たしていても、病気が心配なときは暖房機を強制的に稼働させて除湿しましょう。**

『保温管理のポイント』  
効率的な保温はこちら  
でも詳しくご紹介して  
います！



## 秋～冬の温度管理には除湿もできる『だんぼう当盤』がおすすめ！

### ● 温度・湿度を計測して効率良く加温・除湿

ハウス内の相対湿度は、暖房機を稼働させ温度を上げることで下げることができますが、植物への影響や暖房コストを考えると、常時高い温度設定にすることはできません。こんなときは湿度センサー付で効率よく除湿ができる「だんぼう当盤」をおすすめします！

だんぼう当盤は8段階の温度設定ができるほかに、センサーで湿度を計測しながら、除湿のために暖房機を稼働させることができます。必要なときだけ暖房機を稼働させるため、**コストを抑えながらハウス内を効率よく除湿することができます**。また、暖房機の送風を任意の時間に稼働させられるため、**ハウス内の温度ムラ・湿度ムラも軽減**できます。

トヨタネ株式会社



当社オリジナル商品  
温湿度コントローラ  
『だんぼう当盤』

